

九州運輸局メールマガジン
平成 21 年 10 月 23 日 第 54 号（発行日：毎週金曜日）
～九州の明日を拓く運輸と観光～
九州運輸局 H P アドレス <http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

九州運輸局メールマガジンのご利用ありがとうございます。

目次

- 1．九州運輸局ホームページアップ情報（10月16日～10月22日掲載分）
プレス発表
九州のうんゆ（2009年7月）
行政処分状況
バス・タクシー・トラック
運輸局・業務内容（海事振興部旅客課）
- 2．現場レポート
「いまり海の駅」無料体験乗船会
「サイロ倉庫&造船所見学会」を実施
- 3．九州運輸局セミナー
九州への外国人観光客の誘客にむけて
- 4．リレーコラム
- 5．編集長だより

【九州運輸局ホームページアップ情報】（10月16日～10月22日掲載分）

プレス発表

《観光》

- ・韓国ソウルにおいて「九州観光説明会・商談会」を開催します！（10月19日発表）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press091019.pdf>

- ・中国遼寧省瀋陽地区教育関係者の招請を実施します！（10月21日）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press091021_2.pdf

- ・九州圏 - 関西圏地域間連携による訪日外国人旅行者誘致促進シンポジウムを

開催します（10月21日）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press091021.pdf>

《鉄道》

- ・筑豊電気鉄道株式会社の上限運賃変更認可について（10月20日）

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press091020.pdf>

《自動車・観光》

- ・平成21年自動車及び観光関係功労者表彰について（10月20日）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press091020_2.pdf

《自動車》

- ・海上コンテナ落下事故防止のための街頭検査を実施
～乗務員から聞き取りによる実態調査、ロック不良車両5両に指導～（10月21日）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press091021_3.pdf

《海事》

・小呂小中学校の進水式見学（10月16日発表）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press091016.pdf>

九州のうんゆ（2009年7月）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/kyushuunyu/pdf/21_7.pdf

行政処分状況

・一般乗用旅客自動車運送事業者（平成21年9月分）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/jyouyou/pdf/jyouyou09_09.pdf

・一般貨物運送事業者（平成21年9月分・過積載を除く）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/KAMOTU/pdf/kamotu09_09.pdf

・一般貨物運送事業者（平成21年9月分・過積載に限る）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/jigyousya/KAMOTU/pdf/kasekisai09_09.pdf

バス・タクシー・トラック

・申請公示、処分状況

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/list.html>

運輸局・業務内容（海事振興部旅客課）

・指定区間サービス基準一覧

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kaiji/file01/pdf/file01_13.pdf

【現場レポート】

「いまり海の駅」無料体験乗船会

10月11日、佐賀県伊万里市の「いまり海の駅」（いまりマリーナ）にて「モーターボート&水上バイク無料体験乗船会」のイベントが行われました（主催：いまり海の駅、後援：九州運輸局、（財）日本海洋レジャー安全・振興協会、（財）関門海技協会など）。

当日は、水上バイクタイムトライアルレース、おさかなすくいゲーム、シーバス大会など海のイベントが多数行われ、1,000人以上の来場者がありました。

水上バイク等の体験乗船は、宝石を散りばめたようなキラキラした水面を秋風とともに走り抜け、子供達の喜ぶ声が海いっぱいに広がりました。総計150人を超える人々が無料体験乗船会に参加し、普段マリンレジャーに接する機会のない方々にも、海の素晴らしさやマリンレジャーの楽しさを知ってもらう良い機会となりました。

九州運輸局から「ウクゾウ」くんが出勤し、ライフジャケット着用の推進、ルール、マナーなど遵守事項等の周知を行い、子供たちに人気を博していました。また、運輸局の「ウクゾウ」くんと海上保安部の「うみまる」くんが揃ってイベントに出演するという佐賀県では初のコラボもあり、会場は大いに盛り上がりました。

また、イベントは体験乗船会の他にも、水上バイクタイムトライアルレース、おさかなすくいゲーム、シーバス大会、「ふね検」チャレンジ、ロープワークコーナー、辛いもの朝食競争、チャリティーライブ等々の多数のイベントが催され、家族連れの来場者は心から楽しまれていました。

今回のイベントでは、DVDやパンフレットの配布等を通し、来場者にプレジャーボートの利用振興や海の安全に関することなどを周知・広報を行いました。マリンレジャーは、ルール・マナーを守ってこそ、安全で楽しいものとなります。海での事故が「ゼロ」となることを切に願います。

伊万里以外の「海の駅」においても様々な体験イベントや地域を生かした活動を行っており、これらのイベントや体験乗船の情報はマリンレジャー総合ポータル

ダブルサイト「UMIちゃんねる」で見ることが出来ます。みなさん、是非一度お近くの「海の駅」を訪れてみてはいかがでしょうか？

(海事振興部船舶産業課、海上安全環境部海技資格課、佐賀運輸支局)

「サイロ倉庫&造船所見学会」を実施

佐世保海事事務所では、10月21日、佐世保市内にある西九州倉庫㈱のサイロ倉庫及び佐世保重工業㈱の造船所に同市立吉井南小学校の5年生47名、校長先生を含む先生3名を招待して「倉庫&造船所見学会」を実施しました。

この見学会は、郷土の基幹産業である造船業を身近に感じてもらうとともに、長崎県内唯一の輸入穀物サイロを見学することを通じて、海への感心を深めてもらうことを目的に(社)九州海事広報協会等の協賛を得て行ったものです。

佐世保港前畑岸壁では、「サイロ倉庫」を前に会社の担当の方からその構造や役割などの説明がありましたが、生徒たちは事前に配付していた資料等に目を通していたようで、説明を聞きながらしきりに頷いていました。また、高さ40m近いサイロや荷役機械を見て「高い!」、「すごーい。」などの歓声を上げていた生徒もいました。

造船所では、事務所内でDVDや冊子により、「前身は旧海軍工廠だった。」ことや「構内の設備」、「船ができるまでの工程」などの説明を受けた後、バスに乗りして構内を見学しましたが、完成間近の大型タンカーの側を通過する際には「でけー。」、「すげー。」と、ここでも歓声が上がっていました。

同小学校は市内の山間部にあり、倉庫や造船所を間近に見たことがない生徒が殆どでしたので、見学では目をキョロキョロさせたり、熱心に説明を聞き入るなど、皆、興味深々な様子でした。

当日は好天にも恵まれ、大型船舶やクレーンをバックに造船所構内で記念撮影を行い、見学会は無事終了しました。

当事務所としては、今後も海事思想の普及に努めていきたいと思っております。

追伸)当日はたくさんの質問がありました。以下はその一部です。

- ・「麦」や「とうもろこし」は、どのようにしてサイロへ入れるのですか？
- ・「麦」などはそのまま食べれますか???
- ・造船所で働いている人は何人ですか？
- ・造船所で働きたいと思ったのはどうしてですか？
- ・造船所の広さは？
- ・今まで造った船の数は？一番大きな船は？一番小さな船は？
- ・船を造るのにはどの位の時間がかかるのですか？
- ・ドックに入っている水を抜くためにはどの位の時間がかかるのですか？

(佐世保海事事務所)

【九州運輸局セミナー】

九州への外国人観光客の誘客にむけて

日本においては、本格的な少子高齢化の時代を迎え、定住人口が減少傾向にあります。そこで内外との交流人口を拡大することによりこれを補うことは、日本各地域の活力を維持するうえで大きな意義を有しています。

そこで、平成18年12月に国会において「観光立国推進基本法」が成立し、翌年の平成19年6月には「観光立国推進基本計画」が閣議決定されました。

観光立国の実現のためには、国全体として、官民を挙げて観光立国の実現に取り組む体制が必要であり、とりわけ

我が国が国を挙げて観光立国を推進することを発信するとともに、観光交流

拡大に関する外国政府との交渉を効果的に行うこと。

観光立国に関する数値目標の実現にリーダーシップを発揮して、関係省庁への調整・働きかけを強力に行うこと。

政府が一体となって「住んでよし、訪れてよしの国づくり」に取り組むことを発信するとともに、地方公共団体・民間の観光地づくりの取組を強力に支援すること。

が必要であることから、平成 20 年 10 月 1 日に国土交通省に観光庁が設置され、観光立国を総合的かつ計画的に推進するようになりました。

九州運輸局でも、平成 15 年度からビジット・ジャパン・キャンペーン事業（VJC 事業）に取り組んでいます。VJC 事業では、訪日外国人旅行者数の多い 12 の国・地域（韓国、台湾、中国、香港、タイ、シンガポール、米国、カナダ、英国、独、仏、豪）を重点市場として誘客に取り組んでいます。

九州は、その距離的な関係から、韓国、台湾、中国、香港、タイ、シンガポールを重点国として誘客に取組み、九州を訪れる外国人入国者 100 万人を目指しています。

具体的な VJC 事業の内容としましては、九州 7 県を個別に PR するのではなく、ひとつの「九州」として九州観光推進機構等と協同し PR を行っています。

また、個別テーマを持たせることにより、ターゲットを絞った PR も行っています。例えば、「リラックス」「ヘルシー」「ビューティー」をキーワードに、より上質な旅を目指した「ロハス九州」は韓国の女性をターゲットにしています。「グルメ」「温泉」等は台湾の個人観光客にアピールしており、また、九州内にある環境関連施設や、ハイテク工場を見学する中国からの「教育旅行」などを推進しています。

その結果、九州へ入国した外国人観光客は、2007 年には約 93 万人と順調に増えていましたが、世界同時経済不況、新型インフルエンザの影響などにより、2008 年は約 87 万人に減少しました。

2009 年もそれらの影響は残っており、非常に厳しい状況です。しかし、2010 年までに九州への外国人観光客を 100 万人にする目標を持って、努力を続けています。

特に中国については、本年 7 月から個人観光ビザが一部解禁されたことに伴い、今後ますます増加が予想されますが、残念ながら現時点では、TDR、東京、箱根、京都、大阪といった、いわゆる「ゴールデンルート」に集中しています。

九州には、他の地域に負けない魅力的な観光資源が数多くあります。それらを PR することで、中国人観光客を九州へ誘客出来るよう努力していきます。

VJC 事業以外にも、外国人観光客が自由に行動できるようにするために、案内情報の多言語化や、日本側観光関係者が、積極的に外国人旅行者を受け入れるための「外国人旅行者接遇研修」の開催などを行っています。

国際観光課は、今後とも外国人観光客誘客に向けて取り組んで参ります。

（企画観光部国際観光課）

【リレーコラム】

皆様はじめまして。企画観光部長の加藤です。この 7 月に観光庁から九州に赴任して参りました。兵庫県神戸市の出身であり、九州は初めての地です。不慣れな点などいろいろあるかと思いますが、どうぞよろしくお願ひします。

「観光」というと、これまでは物見遊山や遊びといったネガティブなイメージで捉えられがちでした。ところが、21 世紀になり、グローバル化が進展する一方で、本格的な少子高齢化社会に突入し、人口が減少する我が国の活性化を図るためには、観光を通じて交流人口の増加により外部の活力を取り込むことが重要になります。

そのためには、「観光」という言葉の語源、すなわち「国の光を観る」に立ち

返り、「住んでよし、訪れてよし」の国づくり、地域づくりを目指す「観光立国」を21世紀の我が国の柱とする、そんな考え方で様々な取り組みが進められてきました。最近では、観光立国推進基本法が成立し、観光を21世紀の国づくりの柱とすることが法律上明確に位置付けられるとともに、観光立国推進基本計画が閣議決定され、目指すべき具体的な目標が定められました。さらに、この目標を達成するため、昨年10月、「観光庁」が発足し、取組体制が強化されたところです。

観光では、よく「よそ者、わか者、ばか者」が必要と言われます。不惑をとうに過ぎた私は「わか者」ではありませんが、幸か不幸か「ひとり者」です。これを活かして時間とお金の許す限り九州各地におじゃまし、現場で汗を流している方々にお目にかかりたいと思います。運輸局が持っているネットワークを「強み」として最大限活用し、支局の皆様や地域・自治体の方々とも一緒になって、共に「観光」で九州を活性化させることに汗をかいていきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

(九州運輸局企画観光部長 加藤 進)

【編集長だより】

今週もメールマガジンをご覧いただきありがとうございます。おもしろく読んでいただけたでしょうか。編集スタッフではメールマガジンを作成するうえで「わかりやすい言葉を使っているか」「読者の方に興味ある記事になっているか」「読みやすい構成になっているか」などを心がけ編集しています。

お気づきの点がありましたら下記のメール又はファックスでご意見ご感想をお送りください。

また、九州運輸局ではメールマガジン以外にも広報媒体としてホームページを公開しています。ホームページには最新のトピックスやプレス発表はもちろん、観光に関する情報や運輸、交通環境に関する様々な情報を掲載していますので、皆様の仕事や生活に活用していただけたらと思っています。

その他にも各種の統計情報や自動車の検査・登録に関する情報などが満載です。次のアドレスから簡単にアクセスできますので、ぜひご覧ください。

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

皆様からのご意見・ご要望等を募集しています。下記のメール又はファックスからお気軽にお寄せください。

九州運輸局メールマガジン編集長(九州運輸局総務部広報対策官)

森 益隆(もり ますたか)

mail : mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

バックナンバーは、次のURLに掲載しています。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html